今年も残すところあとわずか……〝新しい希望の年〟へ飛躍するにあたつて、この1年間の県政のうごきの中から、主なものを10件拾つてみた……

写真は知事の歳末慰問に大喜びの児童福祉施設の子供たち

県民所得増大のための県の基本構想（県計画）の策定

♣

農業を主な産業とする本県の県民所得は、全国水準にくらべてはるかに低く、その格差は今後ますます開く傾向にある。

そこで県ではこの格差を縮め県民所得を引きあげて、生活の安定と向上をはかるための基本構想を策定して発表した。

計画では、昭和四十五年度に県民所得を基準年次（三十一年～三十三年の平均）の二倍半に伸ばし、全国水準に追いつくことをねらつている。

そのため、特に農業部門で成長度の高い畜産・果樹部門の振興をはかり、臨海工業地帯の造成など工業化をすゝめ、また優秀な人づくりに力を注いでいくことになつた。

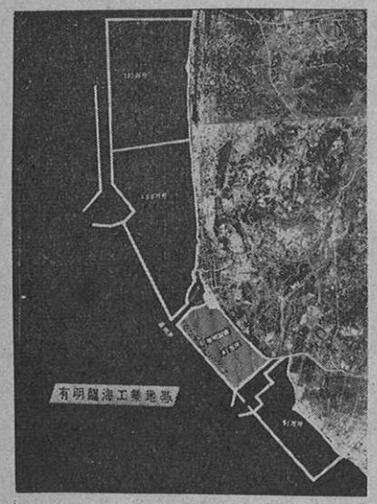
有明臨海工業地帯の開発計画とその調査進む

♣

有明海の海底に埋蔵されている五千六百万トン以上の砂鉄を開発し、これを原料とする製鉄工場の新設計画の具体化をはかるとともに、関連諸産業などを誘致して有明臨海工業地帯の開発をはかるため、さる三月副知事を本部長とする「有明臨海工業地帯開発調査本部」が設けられた。

その後長洲地域、宇土住吉地域の二地域について、種々調査の結果長洲地域をその適地として決め（八月）、その後工場設置のための漁業補償、工業用水都市計画、港湾設備などについて調査交渉の段階に入つた。

なお議会に十一月「産業開発特別委員会」が設けられ、県下の産業開発について調整審議活動が行なわれることになつた。



有明臨海工業地帯造成計画図
写真の中央部が長洲町で、その下の網目の部分が有明製鉄予定地、その上下の白線で囲まれた部分が埋立計画海面

小児マヒの異常発生、県民の総力で撲滅

♣

昨年末から流行の気配のあつた小児マヒは五、六月に入つて急に増加し、流行期の七、八月を前にして県民の重大関心事となつた。

県では四月に「小児マヒ対策本部」を設けて万全の予防対策を講ずるとともに、予防接種の年令を六才までに拡げ完全接種につとめた。

そして六月までには九〇％以上の接種率を上げ、患者発生は七月上旬を峠として急激に減少しはじめた。

更に七月十日から始めた生ワクチンの無料投与によつて、九月からの発生は平年以下の水準となつた。

県内の生ワク投与者数四十二万名。ソーク接種者二十万名。こうして県は、小児マヒ対策のため県費四千万円を投じてこの異状発生の小児マヒを撲滅した。なお、衛生部では、来年度も生ワクの無料投与などを考え、当初予算に必要経費を要求している。

生ワクチンの一斉投与……

天草架橋の実施内定す

♣

天草架橋については県と道路公団で調査を終り、先般来県した建設大臣の談話で、三十六年度に着工、四十年度に完成の予定と発表された。

農業の近代化すすむ

♣

農業を近代化して、農業従事者の所得と生活水準の向上をはかり、農業以外の産業従事者との格差を縮めるため、農業構造改善事業の実施、農業近代化資金の貸し付けなど新しい施策が始つた。

新しい農業経営をめざし畜産も協業化へ……

玉名平野の土地改良事業着工す

♣

玉名平野土地改良事業の一部の工事である頭首工は、昭和三十五年に着工の予定であつたものが、都合で三十六年度に繰り越していたが、いよいよ十二月着工の運びとなつた。

この工事は玉名平野四千四百㌶をかんがいする取水源となる白石堰の設定工事であり、玉名平野開発のための意義は大きい。

九州横断道路の公団工事着工す

♣

いわゆる九州横断道路の開発は、阿蘇郡一の宮町から大分県湯布院町まで、延長約五万三千粁、幅五・五米のアスファルト道路を新設する工事。この雄大な工事は、道路公団の手で、事業費総額約十五億七千万円で三月に着工した。

この道路は昭和三十九年三月まで三年間で完成の予定。

県でもこの道路に関連して、一の宮町城山の阿蘇外輪山を越す部分の、県道別府―一の宮線の改良舗装事業を三十四年度から開始し現在着々と工事を進めている。

工場の進出と工業化の拡大

♣

有明製鉄をはじめ、太洋食品阿蘇興産、日窒吉野石膏、コープ食品、日本デキストローズ、興国セロハン、大永紙工、日豊食品などが新設された。

また十条製紙のクラフトパルプ工場や東海電極の大型焼成工場などの増設や拡張など、工場の進出拡大が行われた。

県では、今後も工場誘致と、工業化を強力に推進する方針である。

有明製鉄のロータリーキルン火入れ式も行われた……

和牛肥育試験場など各種施設の新築落成

♣

畜産振興の基盤ともなるべき和牛肥育試験場や種鶏場、最近クローズアップしてきたビートの試験場、あるいは水産試験場のり試験場、林業研究指導所等々、産業関係の各種施設が相ついで新築落成した。

また、水産学校練習船として、第一熊本丸、第二熊本丸も進水し、就役している。

社会福祉施設、職業訓練機構の強化すすむ

♣

大阪通勤寮の新設、引揚者援護住宅と白川学園の改築、精神薄弱児施設の新設計画、あるいは総合職業訓練施設の拡充など社会福祉施設や職業訓練機構の強化が着々と進んだ。

なお、このほかのいろいろなうごきを列挙してみよう。（順不同）

- 副知事の北米地方行政事情及び南米移住事情の視察
- 五家荘林業公社の植林計画すすむ
- 私立高校四校開校さる
- 県史編さんすすむ
- へき地保育所五カ所新設
- 観光診断実施
- 果樹大集団産地造成事業促進
- 土じよう改良事業促進
- 生産改善パイロット施設設置事業促進
- 農業改良普及員の特技化（果樹、畜産）
- 大規模草地改良基本調査設計事業促進